

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪教育福祉専門学校	昭和51年4月1日	三 上 教 道	〒544-0023 大阪市生野区林寺2丁目21番13号 (電話) 06-6719-0001			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 大阪聖徳学園	昭和27年9月26日	三 上 教 道	〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺3-11-24 (電話) 06-6741-3331			
目 的	教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則並びに、児童福祉法の規定に基づき「幼稚園教員」と「保育士」を育成するため、教員養成指定基準及び指定保育士養成施設指定基準に基づく養成機関として、専門知識と技能を修得し資質の優れた専門職を養成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・社会福祉	教育福祉専門課程	幼児教育科第一部 幼児教育コース	2年(昼)	100単位時間 (又は単位)	平成6年文部科学省告示第84号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	45単位時間 (又は単位)	57単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	11単位時間 (又は単位)	1単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
200人	128人	14人	45人	59人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について 優・良・可・不可、筆記試験等		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月25日～8月20日 ■冬 季：12月25日～1月5日 ■学 年 末：3月10日～4月6日 休業期間中に必要に応じ講義・実習等を実施することがある。		卒業・進級条件	学則の教育課程により100単位を修得した者		
生徒指導	■クラス担任制(有)無 ■長期欠席者への指導等の対応 電話や手紙、家庭訪問等		課外活動	■課外活動の種類 保育所等のボランティア ■サークル活動(有)無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 幼稚園、保育所、児童福祉施設 ■就職率 <sup>*1</sup> 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>*2</sup> 100% ■その他(任意) (平成26年度卒業者に関する平成27年3月時点の情報)		主な資格・検定	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率4.8%</p> <p>平成25年4月1日在学者143名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者136名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的事情、病気、学費未納</p> <p>■中退防止のための取組 奨学金の推奨</p>
ホームページ	URL: <a href="http://www.osaka-shotoku.ac.jp">http://www.osaka-shotoku.ac.jp</a>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程の編成については、教育職員免許法、教育職員免許法施行規則、教員養成機関指定基準並びに指定保育士養成施設指定基準等、幼稚園教諭・保育士養成施設として定められた規程に基づき教育課程の編成を行い、幼稚園・保育所・児童福祉施設等との連携を密にし、保育・福祉現場からの意見や要請を教育課程編成に活用するため、実習先もしくは就職等に反映するように取り組む。

そのためには、

- ①幼稚園・保育所・児童福祉施設等に就職している卒業生を招聘し、保育・福祉現場の最新情報をもとに実習指導及び授業に活用
- ②幼稚園・保育所・児童福祉施設の実習における授業科目・実習指導への意見や要望を集約し、企業との連携について教育課程の編成委員会等に活用

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月1日現在

名 前	所 属
竹本 榮	(福)愛和福祉会 平野愛和学園園長(幼児教育科関係保育関係代表)、大阪市私立保育園連盟副会長、(福)なみはや福祉会理事長
板谷 知佳子	(学)谷岡学園 大阪商業大学附属幼稚園(幼児教育科関係保育関係代表)
村田 智子	(学)大阪聖徳学園 勝山愛和香里ヶ丘幼稚園(幼児教育科関係保育関係代表)
古泓 雅子	(福)聖徳園 生野敬愛保育所主任(幼児教育科関係保育関係代表)
三上 教道	学校関係者
吉本 春樹	学校関係者
関根 聡子	学校関係者
入江 実	学校関係者
日村 義正	学校関係者
中川 隆弘	学校関係者

### (開催日時)

第1回 平成26年10月15日 16:00~17:30

第2回 平成26年11月13日 16:30~17:50

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実習は、「教育実習」、「保育実習Ⅰ・Ⅱ」をもとにして、本校の姉妹幼稚園(6園)同保育所(3園)並びに福祉施設(4施設)の他に、大阪府下に公立や学校法人立の幼稚園及び、公立又は社会福祉法人立の保育所・福祉施設等と連携している。実習の時期は、春季・夏期・秋季に分けている。また幼稚園・保育所実習の実習段階として「導入実習」(見学・観察)・「基礎実習」(短時間実習)・「総合実習」(長時間実習)を行うように計画をしている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
教育実習	幼稚園における実習は、保育の現場に触れ保育者の役割を知り、また実習園の教育方針を理解すると共に、指導計画を立案し保育者の指導のもとで保育を行う。保育者の職務や重要性の認識と自覚を養う。	幼稚園
保育実習Ⅰ：保育所 ：施設	保育所・福祉施設などでの実習は、その施設における役割や機能を理解し、乳幼児・学童と生活を共にしながら、保育活動及び生活支援や保護者への関わり等について学ぶと共に、発達支援を必要とする児者を含めての対応方法や施設処遇等を含	公私立の保育所 福祉施設

	めて福祉を総合的に学習する。	
保育実習Ⅱ	具体的な保育指導を立案し、保育者の指導のもと保育活動を展開する。また乳幼児の発育発達に触れると共に、保護者の子育て支援のあり方などを含めて保育者としての資質を高める。	公私立の保育所
<b>3. 教員の研修等</b>		
<b>(教員の研修等の基本方針)</b>		
教員の研修等については、本校教職員研修規定に基づき各教員と調整の上、研修計画のもとに研修を受ける機会を提供している。その内容は、教員の担当科目や関連団体を含め研修の成果が教員の資質向上及び、授業内容の改善への礎となるようにしている。		
<b>4. 学校関係者評価</b>		
<b>(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)</b>		
平成26年10月1日現在		
名 前	所 属	
萩野 寿美	(学) 大阪聖徳学園 勝山愛和第4幼稚園副園長 (幼児教育科関係保育者代表)	
恵川 純子	(福) 聖徳園 生野敬愛保育所施設長 (幼児教育科関係保育者代表)	
浦谷 正美	元大阪府立高等学校長 (地域の公立高等学校長代表)	
石村 万寿美	同窓会代表 (第二期生)	
古川 啓子	保護者代表 (幼児教育科一年)	
三上 教道	学校長	
吉本 春樹	副校長	
関根 聡子	幼児教育科学科長 (教授)	
日村 義正	学務次長	
<b>(学校関係者評価結果の公表方法)</b>		
URL: <a href="http://www.osaka-shotoku.ac.jp">http://www.osaka-shotoku.ac.jp</a>		
<b>5. 情報提供</b>		
<b>(情報提供の方法)</b>		
URL: <a href="http://www.osaka-shotoku.ac.jp">http://www.osaka-shotoku.ac.jp</a>		

授業科目等の概要

(教育福祉専門課程 幼児教育科第一部 幼児教育コース) 平成26年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			仏教と人間	仏教の教祖・釈尊(ブツ)と浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の生涯と教えを学んだ上、それぞれの人間観に視点を置き、人間のあり方や現代の人間社会における問題(平和・人権)に何を教えていくかを考察する。	2 後	30	2	○			○			○		
○			日本国憲法	日本国憲法を通して国民主権や三権分立等一般社会生活における法律的教育を学んだ上、日本国憲法で保障されている基本的人権の歴史や概要について学ぶ。そして、保育者にとって基本的人権の重要性についてさらなる理解を深めていく。	1 前	30	2	○			○				○	
		○	書道	書写の基礎としての技術は、楷書・行書・平易な草書・カタカナ・ひらがな文章及び文書の書式、複写、聴写を把握し、理論は国語の表記法、硬筆書写に関する知識を身につける。	2 前	30	2	○			○			○		
○			人間関係の心理	保育者を目指すものとして、幼児や保護者の心理を把握し、円滑にコミュニケーションを図ることが大切である。自己や他者の心理及び行動の法則を学ぶ。	1 後	30	2	○			○			○		
		○	自然と人間	身近な自然を見ることや、今日の人間の抱える自然との関わりの中での環境問題・社会事象について、学生相互の意見を交換しながら、授業展開を図る。	2 前	30	2	○			○			○		
○			情報処理	マイクロソフトのWord, Excel, Powerpointを自由に使いこなせるように演習を行う。自由に表現する能力を養うと共に、情報の持つ力を理解できるよう学習する。	1 前	30	2	○			○				○	
○			英会話	国際化社会で必要となる英会話を学ぶために、学生が興味を持ちやすい様々な日常生活から話題を取り上げ、その場面で行われる基本的な日常会話をロールプレイング方式で実践的に学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○	
○			体育講義	身体の成長・発達を助けるために、また自己の健康管理のために大切な「3つの要素」について習得する。かつ、指導者として理解しておくべき「指導者としての心構え」や「必要なパーソナリティ」を学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○		
○			体育実技	人として必要な基礎体力を養い、運動の歩く・走る・跳ぶ・転がる・ぶら下がる・登る・まわる・つかむ・投げる・打つ・蹴るといった動きを実際に行うことにより自身の体力向上をはかり、子ども達の指導につながるように体験、確認する。	1 前	30	1			○	○				○	
○			音楽Ⅰ	保育者としての必要な音楽の正しい知識を身に付けるため、楽典、ソルフェージュや楽譜の読み方など音楽的基礎技能と基礎知識を習得する。	1 通	30	2	○			○			○	○	
		○	○	音楽Ⅱ	指定グレード表をもとに、バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ等のピアノ教則本で基礎の伴奏法を学び、さらに子どものうたや童謡の弾き歌いを学習し、保育の実践場面に活用する技能を習得する。	1・2 通	120	4	○			○			○	○
○			保育音楽	幼児教育に必要な歌唱力と弾き歌いのできる演奏技能を身に付けるとともに、手遊び歌や、簡易伴奏による伴奏方法を学ぶ。	2 後	30	1	○			○				○	
		○	図画工作	子ども達の制作・描画活動の援助指導法としての基礎的技術を習得し、ペーパークラフトやポップアップカード、折り紙ノートの制作を通して子どもの発達に応じた基礎絵画・造形表現の知識と遊びに応用できる技術を学ぶ。	1 通	30	2	○			○			○		
合計					単位時間(26単位)510											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
100単位(1,915時間)を免許・資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育福祉専門課程 幼児教育科第一部 幼児教育コース) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		幼児体育	日常の運動遊びにおける実践指導や運動会の競技や演技の組み立てを企画構成する力が養えるよう実技授業を構成する。	2前	30	2		○		○				
		○	児童文学	様々な時代、国、地域、ジャンルの児童文学作品の姿を学び、また自分たちで児童文学作品創作を試みることで、保育者としての絵本及び児童文学の意義について考察する。	2後	30	2	○						○	
○			保育原理	保育の意義や目的、乳幼児の発達の特徴を学び、その育ちのためにはどのような援助(保育)が必要かを習得し、保育者としての意義や役割を理解し、その専門性を高めていくための方法を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			教育原理	近年の教育保育問題を考える時、教育学と教育問題の基礎的・基本的知識をふまえておくことは、保育現場に立つ上で有効である。学生に「教育課題」を投げかけ、考えることにより、教育の原理を把握する。	1前	30	2	○			○			○	
○			児童家庭福祉	講義形式で児童と家庭の関係、そして学校や地域社会との関わりが児童の成長の上では欠かせない存在であること、その存在が欠けた場合の対応や援助体制について福祉制度を通して考察する。	1前	30	2	○			○		○		
○			社会福祉	社会福祉が実践的な専門領域であると共に、他の領域を生活援助のための有効な社会資源として活用していく意味を具体例を通して理解する。	1後	30	2	○			○		○		
○			社会的養護	テキスト実践編内の数ページを2人一組で、学生自らが用紙にまとめ発展させる形式で演習を進める。発表を聞いている学生は、発表者のまとめを自らのノートに書き発表者の説明を聞く。「読み書き聴く」を通して理解させる。	2後	30	2	○			○			○	
○			人権保育	「人権を大切に育てる心」保育者には、あらゆる場を通じて人権問題について正しい理解と認識を深めるための研鑽に努めることが求められている。様々な人権問題を取り上げ、それらの問題の特質や共通性を捉えると共に、自らの人権意識の深化・充実を図ろうとする資質を育成する。	2前	15	1	○			○			○	
	○		教育経営	学校の法的、制度的構造の把握及び学校経営に関する経営的しくみ等を学習する。今日変動する学校教育を改めて見直し教育改革についても再考させる。	2後	30	2	○			○			○	
○			発達心理学	子ども達の発達を理解するための意義を踏まえ、保育における心理学の活用の仕方を習得していく。さらに様々な子どもの発達に関する問題行動からどのような対処をしていくかを考察する。	1通	60	4	○			○		○		
○			教育心理学	教育現場での基礎的・基本的な子どもの心の問題を考察するため、学生自ら子ども時代に体験した事実を振り返り、教育心理・保育の心理の概要を把握し、保育現場において子どもへの理解や援助法について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			子どもの保健Ⅰ	子どもが健康に発達、成長していくためには、心身の健康増進を図ることが重要である。そのために子どもの身体発達、生理機能や精神運動機能の発達と保健について理解する。また、子どもの精神保健について学びを深める。日ごろから子どもの健康について関心を持たせ、授業内容と関連させながら学習を進める。	1通	60	4	○			○			○	
○			子どもの保健Ⅱ	子どもの保健Ⅰで学んだ知識をもとに、子どもの健康管理を実践するための知識・技術を学ぶ。健康状態の把握、身体測定の見方、発育の評価、応急処置の方法など人形を使用しての実習、事例課題の演習をグループワーク中心で取り組む。	2後	30	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(30単位)465										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
100単位(1,915時間)を免許・資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育福祉専門課程 幼児教育科第一部 幼児教育コース) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの食と栄養	子どもの食と栄養と食生活の特徴と問題、食育の進め方、アレルギーの知識と対処について学ぶ。	2後	30	2		○		○			○	
○			家庭支援論	保育者や支援者が、ソーシャルワークの視点を持って子どもとその課程を支援していく上で必要とされる関係機関との連携や社会資源、様々な支援活動について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			保育総論Ⅰ	教育的環境のあり方が、乳幼児の心身の健全な発達を促すことなどの知識や理解を養い、保育内容が総合的なものであることを学ぶ。また、保育現場において展開される乳幼児の成長発達を理解し、発達段階に応じた環境構成・教師の援助のあり方について様々な視点から学ぶ。教育課程の意義及び、教育課程の編成と指導計画の作成について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
		○	保育総論Ⅱ	指導計画の意義をふまえ、編成上の留意事項を把握しながら乳幼児の生活する姿をどのように捉え、保育内容を如何に展開していくか、また、環境を構成していくかなど、具体的な事例を取り上げグループ討議や演習により、保育計画の実践等の手順を習得していく。また、今後の保育内容のあり方や保育者のあり方を追求していく。	2前	15	1		○		○			○	
○			健康Ⅰ	幼児のからだ・運動、精神、生活習慣、安全習慣の発達と活動例による援助の方法及び、健康な身体と心を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養い、健康な生活の送り方を学ぶ。また、心身の発達と活動例を解説し、他の領域との関連を理解する。	2後	30	2		○		○			○	
		○	健康Ⅱ	子どもの発達状況を考慮し、各年齢に応じた運動遊び(ボール・フラフープ・マット・跳び箱・サーキット・ごっこ遊びなど)を紹介し、実践する。また、幼児体育の補助方法も学生同士で実際に実践し様子を感じ取る。	1後	30	1		○		○			○	
○			人間関係	幼児教育の目的と領域の関係性や環境を通しての教育、そして領域『人間関係』と他領域との関係を学ぶ。事例と理論を関係づけることから、幼児期における人との関わりの発達を見つめ、支え、広げ、深める保育者の役割について学ぶ。	2前	30	2		○		○			○	
○			言葉Ⅰ	「言葉＝言語」の本質と人間にとっての言葉の有用性を考える。言葉獲得の援助の基本を場面(家庭・地域・園など)に応じて把握する。発達段階に応じた言葉獲得の援助のあり方や留意点を理解する。	1前	30	2		○		○			○	
		○	言葉Ⅱ	幼児期に体験すべき豊かな言葉を培うための「お話の世界」を体験し、現場で実践できるよう学習する。また、チームワークを意識しながらの教材作り、劇遊びなどを通してグループワークの中から保育の現場で持つべきコミュニケーション力を培う。	1後	30	2		○		○			○	
○			表現Ⅰ	器楽合奏や歌唱による演習を通して音楽的表現力を身につける。各種楽器の特性と奏法を理解する。子どもたちが演奏できる優しいアレンジ法とその指導方法を習得し、保育内容の基本的な考え方について理解する。	2通	30	2		○		○			○	
○			表現Ⅱ	子どもの発達段階の造形活動を習得したうえで幼児画の分析・見方・支援について学ぶ。また、イラストの研究をすると共に、創作絵本の制作に取り組む。	2通	30	2		○		○			○	
○			環境Ⅰ	幼稚園教育要領や保育所保育指針の『環境』領域をもとに、子ども達の興味関心を育てるために、幼児の発達段階を中心に自然事象・遊具・動植物・社会生活等の様々な観点から実践的学習をする。	1前	30	2		○		○			○	
合計				科目	単位時間(22単位)345										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
100単位(1,915時間)を免許・資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育福祉専門課程 幼児教育科第一部 幼児教育コース) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	環境Ⅱ	環境Ⅰで学んだことを踏まえ、水族館や動物園等を実際に見学し、遠足等で引率の際、子ども達が生物や周りの環境に関心を持ち、生きる力を身近に感じていくよう子ども達の発達段階に応じた教育法を保育者の視点から考察する。	1 後	15	1		○		○	○			
○			乳児保育Ⅰ	新生児～2歳児の発育や機能及び、乳児の成長発達の特徴や課題を理解し、未満児保育の目標とねらい及び、保育内容における実践等の知識や技術を習得する。	1 前	30	2		○		○	○			
○			乳児保育Ⅱ	乳児期は、人格の基礎を培う大切な時期である。その大切な時期を共に過ごす保育士は、子どもにとって大きな影響を与える存在となる。子ども達が心身ともに健やかに成長していくための援助者として、どのように関わっていけばよいかを学ぶ。	1 後	15	1		○		○	○			
	○		障害児保育	障がい児保育の歴史を学び、障がいの特性に対する理解を深め、アセスメントの方法を学習する。また、障がいに応じた支援のあり方について考察する。	2 前	30	2		○		○	○			
○			社会的養護内容	社会的養護を必要とする児童の入所前から入所・生活・退所し自立への一連のケアのプロセスを考察するとともに、援助のあり方や保育士としての理解を深める。	2 前	30	2		○		○	○			
○			教育相談	昨今教育問題が求められている社会的背景より教育相談支援の意義・概要を把握し、相談支援の対象となる子どもの理解、相談援助者となる保育者の姿勢、さらには支援方法の具体的展開について学んでいく。そして、様々な事例から支援方法の検討をしていき、学生同士によるロールプレイングを通して援助技術力を身に付ける。	2 後	30	2		○		○	○			
		○	児童文化	児童文化の基本的概念及び、子どもの取り巻く諸問題並びに社会的要因について考察し、「遊び」の児童文化財などについて、実技を含めながら学習していく。	1	30	2		○		○	○			
○			保育内容特修Ⅰ	絵画造形：幼児造形の教材研究を通して、保育現場での活用力を身につける。造形の専門的技術と知識を習得する。 健康体育：子どもの健康を課題に幼児教育とは何か学習する。幼児の体育あそび・体操を体験するとともに、保育のイベントにも参加する。 子どもの問題行動研究：Ⅲ期にかけて、普通の子どもの発達について、障がいのある子どもや、不登校・非行等の問題行動について学習する。	1 通	30	2		○		○	○			
○			保育内容特修Ⅱ	音楽表現：幼児の表現活動である音楽・造形・身体の総合的表現の場として、「こどもミュージカル・オペレッタ(音楽劇)」を取り上げ、表現方法について多面から研究する。 絵画造形表現：教材研究を通して保育現場における様々な造形素材に対する活用力を習得し、幼児に絵画を指導するための基礎を学ぶ。 健康体育：こどもの発育発達を理解し、健康安全等の生活に必要な習慣や態度及び、運動遊びを通して指導法などを学習する。 児童養護：現状の子どもの生活環境を理解するとともに、地域社会におけるボランティア活動・発展途上国の子どもたちへの支援活動を実践することにより、体験的理解を深める。	2 通	30	2		○		○	○			
○			保育実習Ⅰ	保育所実習(2単位) 二週間と、施設実習(2単位) 二週間でそれぞれ履修し、保育者としてのあり方を学ぶ。	1通 2前	160	4		○		○	○			○
○			保育実習指導Ⅰ	保育所実習+施設実習の各二週間を通して、保育者としての心構えや対象児と直接関わる際の支援と対処法などを学ぶ。	1通 2前	60	2		○		○	○			
		○	保育実習Ⅱ又はⅢ	保育実習Ⅱは、保育所実習(2単位) 二週間又は、保育実習Ⅲは、施設実習(2単位) 二週間の何れかを履修し、保育者としての資質を高める。	2 前	80	2			○	○	○			○
合計				科目	単位時間(24単位)555										

  

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
100単位(1,915時間)を免許・資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育福祉専門課程 幼児教育科第一部 幼児教育コース) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	保育実習指導Ⅱは、保育所実習(2単位) 二週間又は、保育実習指導Ⅲは、施設実習(2単位) 二週間の何れかの実習にかかる事前指導と実習後の事後指導から、対象児への処遇方法や技術等を学ぶ。	2前	30	1			○			○		
○			教育実習	幼稚園教育の目標を理解し、日ごろ学習している技能を基礎として事前指導を踏まえた上、4週間の教育実習に参加することで保育の現場に触れ保育者の役割を知り、また実習園の教育方針を理解すると共に、指導案を立て保育指導を行う。実習後には、実習で実践した内容の発表とまとめを行い、保育者の職務の重要性の認識と自覚を養う。(「実習指導」1単位を含む)	1通 2後	190	5		○	○	○	○	○		○
○			教職・保育実践演習	本校で学んできたこと、教科科目と教職科目などを総括して、五領域「健康・人間関係・言葉・表現・環境」を中心に学習してきた内容を振り返る。また、指導案を作成し、実践することで、実際の保育現場で即実践できる力を身につける。	2後	30	2			○			○		
		○	レクリエーション論	人間関係が希薄になる社会の中でレクリエーションの果たす役割と重要性を認識させ、子ども達に楽しみ、かつ効果的なレクリエーションを理論と実践におけるポイントを習得する。	2前	30	2	○							○
○			レクリエーション活動	レクリエーションの意味と必要性を認識し、色々なレクリエーションを体験し、技術・指導法を習得する。	2前	30	2			○					○
○			特別教育活動	本校系列の幼稚園(6ヶ園)に夏季・冬季・春季・運動会並びに特別養護老人ホーム(3ヶ園)を含む10日間のインターンシップとして子ども達や高齢者より身近に関わる体験学習に参加する。事前指導では、子ども達や高齢者との関わることへの心構え・注意事項を確認し、保育者の役割(職業教育)を認識させる。事後指導では体験学習の内容や体験を通して学んできたことを毎回レポートにまとめる。	1・2通	30	1			○		○	○	○	○
合計				科目	単位時間(13単位)340										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
100単位(1,915時間)を免許・資格取得に係る単位(時間)を履修しなければならない。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。